

2019 年度事業報告

I. 総括

IGSAP が 2017 年に発表した「未来安全構想」において、安全な未来社会の実現には、人、技術、そしてそれを取り巻く仕組み、マネジメントの各要素での取り組みが重要であることを提唱してきた。この「未来安全構想」の具現化のために 2019 年度は、新たな委員会、部会を創設するとともに既存の委員会、研究会などの運営体制を強化した。一方、新たな要員認証制度として、セーフティオフィサ制度を 2019 年 9 月の第 3 回理事会で承認を受け、日本認証(株)での数社のトライアルを経て、2020 年度から本格実施を予定している。また、協調安全関連では、Safety2.0 適合審査制度における規程を「Safety2.0 に関する一般要求事項」として 2019 年 10 月に改正すると共に、Safety2.0 適合審査を積極的に働きかけ 6 件の審査登録を行った。

II. 重点施策

1. 組織体制の強化

1) 委員会組織、協議会組織

2019 年度の重点施策として組織体制の強化を目的に、委員会組織、協議会組織の見直し再編を行い、改めてその組織体制、機能、主導者を明確にした。また、委員会活動等の開催スケジュールを年度計画としてあらかじめ明確にし、日程的にもその実施を確実なものとした。

◇2019 年度 委員会、部会、フォーラム、研究会の活動状況及び課題と今後の取組み

| セーフティエグゼクティブ(SE)委員会 (藤田委員長) | | |
|-----------------------------|--|---|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第 1 回 6/25 | SE 委員会メンバに対して以下の活動を報告し、参加、活用を促した。 ・ 協調安全の海外連携状況と今後の展開 ・ IEC MSB 白書プロジェクト | SE 委員会では、協調安全を中心として最新の国内外情勢や活動について報告しているが、各企業の具体的な活動に対しての参画はまだ十分ではない。 |
| 第 2 回 9/13 | ・ 機械安全要員力量 JIS 発行と IECCE での要員力量認証制度の創設 ・ セーフティオフィサ資格制度の創設 | 2020 年度はグローバルでの安全のトレンドを取り入れた最新版である「未来安全構想 2.0」を作成する。 |
| 第 3 回 1/22 | ・ Safety2.0 適合審査制度の状況 ・ 未来安全構想の改編について ・ 世界の安全安心の新潮流と日本の今後の動向について | また、セーフティオフィサ部会を設け、制度の規定化とともに労働安全衛生マネジメントシステムとの連携や本制度の活用、促進を進めていく。 |

| 建設委員会 (河田委員長) | | |
|---------------|---|---|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第 1 回 8/26 | 業種別委員会として今年度新たに発足した建設委員会を、メンバ募集して再編し活動を開始した。 | 建設委員会は順調に立ち上がったが、今後の継続、発展に向けて短期、中期の目標を明確にするとともに、IGSAP の他委員会との協業活動を実施して行くことが必要と思われる。 |
| 第 2 回 10/8 | 第 1 回委員会では、委員会の今後の進め方等について論議を行った。 第 2 回委員会は、清水建設の技術研究所の見学を実施した。なお、建設委員会以外メンバも参加した。 | 2020 年度は、建築、建設機械メーカーに対して入会促進活動を実施するとともに、他委員会とも連携して、協調安全に実施事例検証を開始する。 |
| 第 3 回 1/20 | 第 3 回委員会では 3 年後の委員会の姿について各社からご意見いただき、それを基に次回委員会にて委員会の中期、短期計画を決定することとした。 | |

| Safety2.0 委員会 (山田委員長) | | |
|-----------------------|---|--|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第1回 9/25 | 協調安全における技術面の中核機能として Safety2.0 委員会を今年度新設した。第1回委員会では、今後の Safety2.0 委員会の進め方について、他の委員会との連携、Safety2.0 研究会との同時開催等を論議した。 | Safety2.0 委員会と研究会の位置づけをより明確にすべきとの意見に対して 2020 年度は、両組織の役割を明確にする。 |
| 第2回 12/17 | また、山田委員長より「Safety2.0 の技術的論点」についての発表があった。 第2回 Safety2.0 委員会では藤田氏により 2019 年 11 月の VZ フィンランド会議の報告および「グローバルにおける IGSAP の活動と今後について」の発表いただいた。第3回委員会は、コロナウイルスの拡大により中止する。 | 委員会は協調安全の技術規格化に必要な定義、概念、各種安全化への考え方を日本認証(株)が経済産業省から受託予定である協調安全の標準化事業の委員会、分科会と協業して作りあげていく。 |

| ロボット委員会 (小平委員長) | | |
|-----------------|---|--|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第1回 7/3 | 第1回委員会では、今年度の活動方針、計画として、海外も含めた R-SA の促進、WRS への取組みについて論議を行った。また、ロボットシステム安全部会(部会長:野田先生)の設置について承認した。 | ロボットアセッサの受験者数は、順調に推移しているが、本資格制度をより一層、認知、活用するためには、要員力量基準、規定、運用文書などが未整備であり、2020 年度は委員会メンバー中心のタスクチームを設立して検討、作成する。 |
| 第2回 9/10 | 第2回委員会では、SIer を対象とした R-SA 資格取得促進について、また、ロボットシステム部会の活動、WRS2020 に向けた取り組みが論議した。 | |
| 第3回 1/21 | 第3回ロボット委員会では今年度活動報告および来年度実行計画について論議した。 | また SIer を対象とした R-SA 資格取得促進については、Sier 協会と連携した講習会について実施検討する。 |

| ロボットシステム安全部会 (野田部会長) | | |
|----------------------|---|--|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第1回 10/23 | ロボット委員会の下部組織としてロボット安全システム部会を創設し、野田先生を部会長として設立する。第1回部会では、ロボット委員会と当部会との位置づけ、役割等を決定した。 | WRS2019 は準備不足もあり、安全監視、アドバイザーの役割、進め方等が不明確な部分もあった。 |
| 第2回 12/3 | また、WRS2019、WRS2020 において当ロボット部会が安全監視団の運営に関してアドバイザー組織として推進を行っていくこととした。 | WRS2020 は、2021 年度に延期されたが、2019 年の実施課題も考慮して、実施事項のスケジュール化して SA 協議会、ロボット委員会と協業して取り組んでいく。 |
| 第3回 1/21 | 第2回部会では、安全監視団の人員の決定等を行った。 第3回部会は、WRS2019 の実施結果、課題について報告頂き、WRS2020 の実行計画について討議した。 | |

| 安全経営フォーラム | | |
|-------------|--|---|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第1回 5/29 | 第1回は、Safety2.0研究会との合同開催とし、農研機構農業技術革新工学研究センターを訪問、意見交流会等を実施した。 | 安全経営フォーラムは、安全に関する経営者の相互交流組織であるが、参加企業が少いので、賛助会員を含めた会員増強が不可欠である。 2020年度は中災防やVision Zeroの活動と連動させるなど、経営層に安全についての関心を高めるなど、エグゼクティブ委員会で企画、検討し活性化を行っていく。 |
| 第2回 7/17 | 第2回は、筑波宇宙センター見学及び有人宇宙システム㈱との意見交流会を実施した。 | |
| 第3回 10/8 | 第3回は、建設委員会との合同開催とし、清水建設の技術研究所の見学等を行った。 | |
| 第4回 1/22 | 第4回は、SE委員会と合同開催とし、日揮株式会社の安全の取り組みについて意見交流した。 | |

| Safety2.0研究会 (山田主査) | | |
|---------------------|---|--|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| 第1回 5/29 | 第1回は、安全経営フォーラムと合同開催とし、農研機構農業技術革新工学研究センターを訪問、意見交流会等を実施。 | 研究会は、Safety2.0の普及と社会実装の推進を目的としていることから、具体的適用事例を紹介してきたが2020年は、より協調安全の社会実装の推進するために、他委員会、関連組織と連携して具体的な適用事例における検証、研究成果の紹介活動などを実施する。 |
| 第2回 9/25 | 第2回は、山田主査より「Safety2.0の技術展望」について発表を頂いた。また、JCが経済産業省から受託している協調安全プロジェクト、IEC白書プロジェクト等の国際標準化について紹介を行った。 | |
| 第3回 12/17 | 第3回は山田主査より「人間中心のハザード分析と制御について」ご講演をいただき、活発な質疑応答が交わされた。 | |

◇SA協議会の活動状況及び課題と今後の取組み

| SA (セーフティアソシエイツ) 協議会 SA (セーフティアセッサ) 部会 (向殿会長) | | |
|---|--|---|
| 開催日 | 実施状況 | 課題及び今後の取組み |
| スキルアップミーティング 8/29 東京 | 本年度7月にSA協議会の社会的認知度の向上と共に会員の技術力の向上、社会的地位の向上を目指すため、SA (セーフティアセッサ) 協議会の名称を、SA (セーフティアソシエイツ) 協議会に改称し、現在のSA資格者の集まりをセーフティアセッサ部会とし発足した。 SA資格者の力量向上のためのスキルアップミーティングを以下開催した。 | 2020年度はロボットアセッサ資格保持者のロボット部会を設立して、部会長を決めて活動を開始する。 セーフティアセッサ資格者やロボットアセッサ資格者などがそれぞれの能力を生かして、活動して地位向上を目指す。 |
| 11/1 名古屋 | 8/29 東京 ・向殿会長他：協調安全、ロボット安全の講演 ・グループ討議：産業用ロボットのリスクアセスメント | |
| 11/8 大阪 | 11/1 名古屋 ・産業用ロボットの安全について | |
| | 11/8 大阪 講演内容 ・労働基準監督官：機械安全の法的扱い ・色川法律事務所：労働災害に伴う訴訟の実態 | |

2) 法人会員の拡大

法人会員の拡大は、IGSAP の財政基盤の確立のためだけでなく、活動の活性化や相乗効果のためにも不可欠である。2019 年度では、正会員として、三菱電機、Panasonic、NIPPO（賛助会員より異動）の 3 社、賛助会員では、オリンパス、コニカミノルタ株式会社の 2 社が入会した。

2. 事業推進

1) ロボットセーフティアセッサ資格制度

ロボットセーフティアセッサの資格取得状況は、2019 年度は受験者数 370 名に対して合格者数 140 名（合格率約 38%）に終わった。2018 年度の年間受験者数 364 名、合格者数 263 名（合格率 72.2%）に比較して、合格率は大幅に低下した。その主な要因としては、制御機器メーカー等安全の意識、知識の高いセーフティアセッサ資格者による受験が概ね終わって、安全知識が十分でない受験者が増加しているためと考える。

受験意欲を上げるためにも現状の合格レベルの改善はしたいが、合格レベルを下げるのではなく、受験者の知識、技能のレベルアップ策を検討する。

ターゲットとしているシステムインテグレータの受験者も徐々に増加しているが継続的に受験者を確保するためには、Sier 協会への働きかけを実施していく。

2) Safety2.0 適合審査登録制度

Safety2.0 適合審査登録制度は、IGSAP の制度化により日本認証で 2018 年 2 月から運用実施している。2019 年度は、適合審査のための基準である「Safety2.0 適合審査基準」を「Safety2.0 に関する一般要求事項」として、この 10 月に改正とともに、下記 6 件の Safety2.0 適合審査を行い登録した。

| 適合登録番号 | 適合基準レベル | 登録事業者 | 適合スコープ | 適合登録日 | 有効期限 |
|--------------|---------|------------------------------|---|-----------|-----------|
| S219063002L1 | 1 | ソニーセミコンダクタマ ニユファクチャリング(株) | 協働ロボット及び静電容量 式 ANSHIN Sensor を使用した ロボットシステム | 2019/6/3 | 2022/6/3 |
| S219113003L1 | 1 | IDEC (株) | ウェアラブルストップス イッチを使用したアシスト E-STOP コンポーネント | 2019/11/8 | 2022/11/7 |
| S220033004L1 | 1 | 清水建設(株) | トンネル事における重機接 触災害リスク低減システム | 2020/3/2 | 2023/3/1 |
| S220033005L1 | 1 | IDEC (株) | EXBeacon を応用したトンネ ル内の作業員および車両位 置検知システム | 2020/3/2 | 2023/3/1 |
| S220033006L1 | 1 | IDEC (株) | 高視認性 LED による工事車両 ／重機等の動作表示システ ム | 2020/3/2 | 2023/3/1 |
| S220033007L1 | 1 | アズミー(株) | 特殊車両用安全 AI カメラシ ステム | 2020/3/2 | 2023/3/1 |

3) セーフティオフィサ資格認証制度

2019年度は、経営者や管理者あるいはスタッフを対象としたセーフティオフィサ資格制度を、eラーニングによる教育と Web-Based Testing によるテストを行い資格制度のトライアルを開始した。

結果として、システム上のトラブルは無かったが、仕様の要望がありシステムの改良とともに、評価試験の見直しを実施し 2020年度は本格的に運用を開始する。

4) 向殿安全賞

本年度の向殿安全賞は、2019年7月1日（月）～2019年7月31日（水）に行い、9月11日の向殿安全賞審査委員会（委員長：関西大学小澤教授）により、団体（企業）2社、1グループ、個人5名の表彰の決定を行い、11/29に IIFES 会場にて表彰式を行った。

| | | | |
|------|---|-------|--|
| 団体 | ファナック(株) | 功績賞 | ロボット安全及び協調安全に関する国際標準化支援への貢献 |
| 団体 | (株)クボタ | 功績賞 | 安全最優先の文化醸成と共存環境の安全への取り組みに貢献 |
| グループ | 株式会社日立プラント メカニクス NEXT11 チーム | 奨励賞 | 天井クレーンの安全運転支援システムの開発に貢献 |
| 個人 | 大賀 公二様 | 奨励賞 | システム安全を核としたセーフティアソシエイツ協議会活動の推進及び社会展開への貢献 |
| 個人 | 中村 美徳様 | 功績賞 | 産業医として産業現場の安全衛生化推進に貢献 |
| 個人 | Mr. Kerry McManama | 国際貢献賞 | IECEE 要員能力認証制度への貢献 |
| 個人 | Mr. Hans-Horst Konkolewsky | 特別功労賞 | 世界的な労働安全衛生分野・社会保障分野における予防文化構築による貢献 |
| 個人 | Professor Gerard I. J. M. Zwetsloot (Phd) | 功労賞 | 世界的な労働安全衛生分野における研究・教育・啓発による貢献 |

3. 定時社員総会・理事会の活動報告

1) 定時社員総会

2019年6月25日に定時社員総会を開催し、以下の議案が原案どおりに可決された。

（議案）

第1号議案 2019年度事業報告 ご承認の件

第2号議案 2019年度決算報告、監査報告 ご承認の件

第3号議案 2020年度基本方針及び事業計画、収支計画 ご承認の件

第4号議案 理事の再任、新任 ご承認の件

2) 理事会

2019年4月より2020年3月までの間に理事会を6回開催し、下記の事項についてそれぞれの決議、並びに報告を行った。

(1) 第1回理事会（2019年5月30日）

（議決事項）

第1号議案：2018年度事業報告及び収支報告、承認の件（社員総会承認事項）

第2号議案 2019年度基本方針及び施策、事業計画及び委員会、協議会の設置、承認の件

第3号議案：理事の選任、承認の件（社員総会承認事項）

第4号議案：会員入会

第5号議案：委員会の設置と委員長の選任及び委員長交代 承認の件

第6号議案：向殿安全表彰基準及び安全賞募集規定の制定、承認 の件

第7号議案 Safety2.0 審査登録費用の改定及びサーベランス費用などの設定、承認の件

第8号議案 協賛申請受諾、承認の件

(2) 第2回理事会（2019年6月25日）

（議決事項）

第1号議案：セーフティアソシエイツ(SA)協議会規定制定 承認の件

（報告事項）

2019年度予算見通し及びスケジュール 報告の件

(3) 理事会“電磁的決裁”（2019年7月18日）

第1号議案「IEC活動推進会議（IEC-APC）入会の承認について

(4) 第3回理事会（2019年9月13日）

（議決事項）

第1号議案 会員入会 承認の件

第2号議案 セーフティオフィサ資格制度に関する件

(5) 第4回理事会（2019年12月17日）

（議決事項）

第1号議案 SIAS-2020 主催団体への参画依頼

第2号議案 特別顧問就任に関する件

（報告事項）

2019年度 実施計画の状況報告

2019年度 予算収支報告と今後の見込み

Safety2.0 適合審査基準改定の件

2020年度の重点施策の討議

(6) 第5回理事会（2020年3月25日）

（議決事項）

第1号議案 2020年度事業計画案 承認の件

第2号議案 2020年度予算案 承認の件

第3号議案 コニカミノルタ株式会社賛助会員入会 承認の件

第4号議案 事業活動における独占禁止法に関する規定および 競争法コンプライアンス指
針 承認の件

第5号議案 一社) PL 対策推進協議会 シンポジウム後援 承認の件

（報告事項）

IGSAP ファイル共有サービスの運用方針とお願い

「令和2年度顕功賞」および「令和2年度緑十字賞」候補者推薦

「VISION ZERO キャンペーン参加に関する依頼について」の確認

2019年度の総会、委員会、部会、研究会の開催実績

| | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------|------|------|------|------|------|-------|--------------|-------|------|----|------|
| 社員総会 | | 6/25 | | | | | | | | | |
| 理事会 | 5/30 | 6/25 | 7/18 | | 9/13 | | | 12/17 | | | 3/25 |
| セーフティエグゼクティブ 委員会 | | 6/25 | | | 9/13 | | | | 1/22 | | |
| 建設委員会 | | | | 8/26 | | 10/8 | | | 1/20 | | |
| Safety2.0委員会 | | | | | 9/25 | | | 12/17 | | | |
| ロボット委員会 | | | 7/3 | | 9/10 | | | | 1/21 | | |
| ロボットシステム安全部会 | | | | | | 10/23 | | 12/3 | 1/21 | | |
| Safety2.0研究会 | 5/29 | | | | 9/25 | | | 12/17 | | | |
| 安全経営フォーラム | 5/29 | | 7/17 | | | 10/8 | | | 1/22 | | |
| SA部会 | | | | 8/29 | | | 11/1 11/8 | | | | |

以上